

## ロドコッカス感染症の早期診断

日高軽種馬農協 荻伏診療所

野田龍介

7月に入り、暑くなる日も出てきたことと思います。子馬の健康管理に気を配られている方も多いのではないのでしょうか？

今回は生産牧場での身近な話題として子馬のロドコッカス感染症についてその概要をお話しさせていただきます。

### ロドコッカス感染症とは

ロドコッカス感染症はロドコッカス・エクイ (R. equi) と呼ばれる細菌が原因で、6ヶ月齢未満、特に1～3ヶ月齢の子馬に感染すると肺炎や腸炎を引き起こします。重症例では死亡することもあり、子馬において重要な疾患の1つです。この菌は主に放牧地やパドックの土壌中で生息し、その他飼料、糞、空気中など、牧場の様々な場所に存在しています。

### ロドコッカス感染症の症状

ロドコッカス感染症の主な症状は気管支炎や肺炎などの呼吸器症状で、肺膿瘍形成による化膿性肺炎を発症します。感染初期の症状はわずかな発熱と呼吸数増加であることが多く、発咳や鼻漏が常に認められるわけではありません。肺炎症状が進行すると哺乳欲減退、沈鬱、呼吸困難の状態(鼻孔の拡張や腹式呼吸を伴っている状態)が認められます。腹腔内に膿瘍を形成した場合、体重減少、疝痛症状、下痢などの症状が認められ、さらに肺や腹腔内の膿瘍から細菌が全身に拡散した場合、関節炎や骨髄炎を発症し、死に至る場合もあります。

### ロドコッカス感染症の診断・治療

ロドコッカス感染症は、子馬の症状や牧場でのこれまでの発生状況に加えて、血液一般検査、血液中のR. equi 抗体検査 (ELISA検査)、気管洗浄液検査 (図1) や胸部エコー検査など実施した検査の結果を踏まえて診断されます。これらの検査の中でも気管洗浄液検査はロドコッカス感染症を早期診断する上で有用な検査法です。気管洗浄液検査とは鼻孔から細いカテーテル (図2) を挿入し少量の生理食塩水による気管洗浄を行い、回収した洗浄液を検査機関に搬入し細菌培養検査を実施するものです。そこでロドコッカスの菌が培養検出されれば、抗生物質の感受性試験により、どのような抗生物質が効果的なのかを調べて使用する薬剤を決定することができます。気管洗浄液検査はロドコッカス感染症の早期診断法としては強く推奨されています。

ロドコッカス感染症の治療は抗生物質の投与が基本であり、症状に合わせて消炎剤や補液療法などを実施することになります。治療期間は長いもので数ヶ月間かかることもあり、重症化させないためには早期発見、早期診断、早期治療をすることが大切です。その子馬の状況によって必要な検査・治療も変わってきますので必ず担当の獣医師とよく相談しながら検査・治療をすすめるようにしてください。



図1 気管洗浄実施の様子

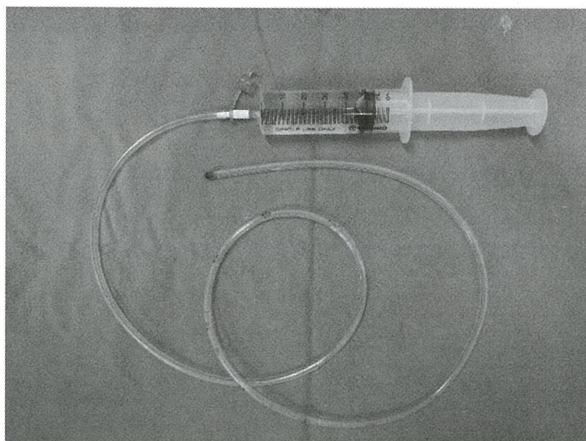


図2 気管洗浄に使用するカテーテル

### おわりに

ロドコッカス感染症は症状が重篤なものでは死に至るケースもあり、特に腹腔内膿瘍を形成すると致死率が高く予後不良となることが多いです。

しかし、ロドコッカス感染症は早期発見・早期治療で治療率は上がる疾患であり、特に感染初期に獣医師の診察を受けて適切な治療を開始することが重要です。日ごろから体温や呼吸の状態に気を配り、毎日体温測定を実施することを心掛け、気になることがあれば獣医師に相談するようにしてください。